旭川医科大学研究フォーラム 11　：125 ～ 126，2010

学界の動向

第 15 回日本糖尿病眼学会報告

石　子　智　士*

第 15 回日本糖尿病眼学会総会を、旭川医科大学吉田晃敏学長を会長に、平成 21- 年 12 月 5 日（土）、6 日（日）の両日、名古屋国際会議場で開催致しました。今回は、第 48 回日本網膜硝子体学会総会ならびに第 26 回日本眼循環学会との合同で、Nagoya Ophthalmic Week (NOW) 2009 の一部として開催されました。

本学会は、日本臨床眼科学会の専門別研究会から発展した学会です。眼科医のみならず内科医など糖尿病とその合併症に関る医師およびケアを行う看護師などの医療者を対象としており、眼科領域の医療者のみを対象とした専門学会とは趣が異なり、多角的な視点から糖尿病を学ぶことのできる学会として位置づけられています。

今回の特別講演は、東京大学の門脇孝先生にお願いしました。「糖尿病の成因と治療戦略―網膜症を含めて」と題した講演で、将来のテーラーメイド医療や再生医療の展望にも触れながら糖尿病に関する最新の情報を伺うことが出来ました。この分野では世界的権威の先生ですが、我々眼科医が講演を聞く機会はなかなか無く、会員からも好評でした。

本学会独自のシンポジウムは、「眼科医のための知ってもらいたい糖尿病合併症」で、旭川医大の羽田勝計先生と名古屋大学の中村二郎先生にオーガナイザーをお願いしました。腎症、神経障害の診断と治療、糖尿病および合併症の実態に関する大規模研究の概説など、網膜症以外の糖尿病合併症についての勉強をさせて頂きました。これらは、他の眼科の学会ではなかなか聞けない内容であり、糖尿病眼学会ならではのシンポジウムと思います。

また、コメディカルを対象とした研修シンポジウムは「エンパワスメントは心である」で、済生会新潟第二病院の安藤伸朗先生と東京都済生会中央病院の松岡健平先生にオーガナイザーをお願いしました。心療内科的あるいは心療眼科的アプローチにより、如何にして糖尿病患者と向き合うかという問題を、今一度我々医療従事者に問いかける内容でした。

さらに、3 学会合同シンポジウムの一つとして、「糖尿病網膜症―病態研究と治療の進歩―」を、東京女子医大の岩本安彦先生と山形大学の山下英俊先生にオーガナイザーをお願いして行いました。糖尿病網膜症に関する病態研究、診断と治療の進歩、そして遺伝素因について最新の情報を学ぶことができました。

本学会と合同で開催された日本網膜硝子体学会では、優秀な若い研究者に与えられる「田野 Young Investigator’s Award」を、旭川医大の長岡泰司先生と大阪大学の辻川元一先生が受賞されました。長岡先生はすでにこの分野の第一人者でありますが、これからの

*旭川医科大学　医工連携総研講座

眼循環学会発展にいかに期待されているかが伺えます。

また同様に合同で開催された日本眼循環学会のシンポジウムのひとつ「薬物と眼循環」では、旭川医大眼科の高橋淳士先生が「内服薬、点眼薬による眼循環への影響」について講演しました。

３学会合同教育セミナーとして、「眼底画像診断の進歩」をテーマに、「蛍光眼底造影検査」、「OCT（光干渉断層検査）」、そして「最新検査」の３つのセミナーを行いました。眼科臨床で古くから使われている検査法から最新の検査法まで、基本を見直しこれらの検査をどのように使いこなすのか、そして新しい検査法で何がわかるようになったのかを知ることができるものでした。このうち「最新検査」のひとつとして、私もSLO（走査レーザー検眼鏡）に関する講演をさせていただきました。

共催セミナーとしては、３学会全体で２つのモーニングセミナーと９つのランチョンセミナー、４つのイブニングセミナー、そしてフェアウエルセミナーがありました。私もモーニングセミナーに呼ばれ、最新のSD-OCT に関する講演をさせていただきました。

今回、３つの学会を合同で開催いたしましたが、日本糖尿病眼学会は会員数約 900 名、日本網膜硝子体学会は約 2,500 名、日本眼循環学会は約 450 名の会員を有しています。糖尿病眼学会総会単独開催では例年 700 ～ 900 名の参加人数のところ、今回は全体で 1,717 名の参加を頂きました。ここにあらためて、第 15 回日本糖尿病眼学会総会開催のため本学関係者から頂いたご支援、ご協力に、心から感謝致しますとともに、本学会を盛会裡に終了できましたことを厚くお礼申し上げます。

なお、平成 23 年度遠隔医療学会学術大会を、「遠隔医療の最前線」のテーマのもと、旭川医科大学吉田晃敏学長を会長として、平成 23 年 10 月 14 日（金）、15 日（土）旭川グランドホテルを会場に開催いたします。御支援の程、何卒よろしくお願い申しあげます。

合同開催した３学会の各大会長と事務局長・スタッフ